

と。

サンマイバシ 三枚橋 江沼郡大聖寺なる後町と三枚橋町との間細坪川に架けられて、江沼志稿には長二間許・幅六尺とある。この地往々土中より人骨を出したから、三枚橋は三味橋の訛であらうといはれる。

サンミヨウ 三明 羽咋郡熊野方郷に屬する部落。

サンモンバシ 三文橋 金澤石浦新町の裏町の末で、笠舞村用水尻の江川に架けた小さな板橋を呼んだ。舊傳にいふ。昔此の附近が町地となつた頃、戸別に三文宛の費用を出させたによつて名を得たと。此の地が相對請地となつて、家屋を建てたのは、寛文以前のことであるから、橋を架けたのも前田利常の世のことである。

サンヨウサイザツキ 三養齋雜記 一冊。青地禮幹の三養齋記(正徳三年)を初め、新井白石・大地昌言等の詩を載せたものである。

サンヨウシユウ 三用集 正徳五年三ヶ屋板の六用集以前に同書林から發行したもので、多年重寶がられたといふことであるが、今明らかでない。三用集は六用集のもつと條項の少いものであらう。

サンヨウバ 算用場 (一)加賀藩—加賀藩の御算用場は會計を司る所で、御算用場奉行が統轄した。その役所は、萬治二年まで新堂形の地にあつたが、やがて金谷門外堂形の地に轉じた。即ち後に堂形御殿のあつた所である。次いで寛文十二年西町口門外に再轉した。御算用場内には御預地方御用・改作奉行・定檢地奉行・御郡奉行その他諸種の役所が併置せられてゐた。明治二年三月廿六日御算用

場を廢し、その事務を會計寮と民政寮とに分割した。

(二)大聖寺藩—大聖寺藩の御算用場は出納及び俸祿を司る處で、御算用場奉行・勘定役が頭役となり、算勘に通じた元締役、清廉なる御目附が之に屬する。その他金銀小拂役・御貨物奉行・三十人講奉行・錢手形奉行・松奉行・大入土藏奉行・表土藏奉行・永町御藏奉行・永町給知奉行等が之に屬した。

サンヨウバブギヨウ 算用場奉行 加賀藩の御算用場奉行の初めは明らかでないが、元和中から三輪志摩長好・稻葉左近直富が勤め、津田勤兵衛重次も元和二年の頃之を勤めた。寛永十五年奥村源左衛門長元・脇田九兵衛直賢・青木助丞、十八年前田光高入國の時には奥村源左衛門・岡島市郎兵衛・小塚藤右衛門が勤めた。爾後變遷はあるが、元祿九年八月菊池十六郎武康・野村五郎兵衛永重・不破平左衛門方好が命ぜられてから後代の制となり、一人は人持、二人は御馬廻頭から任せられるを通則とすることゝなつた。但し人持二人であつたこともあり、御馬廻頭に代へるに定番頭又は組頭並から任せられたこともある。

サンヨウバヨコメ 算用場横目 御算用場横目の初は明らかでない。寛文四年佐垣九右衛門、八年小林三郎右衛門が命ぜられ、寶永七年不破の御免後、多胡源五左衛門之に代り、享保三年御大小將横目に轉役。次いで同五年伊東半右衛門の免役後、多胡源五左衛門は御大小將横目で之を兼役した。後九年上月忠太夫が命ぜられ、爾後常に一人役であつた。

サンヨウモノ 算用者 御算用者は御算用場に屬して計算を掌る者である。その初は不明であるが、前田利長の時に今村伊右衛門が當役であつた。寛永年間から姓名も多く傳へられ、寛文中からは切米四十俵を賜はつた。**サンヨウモノ 算用者** ↓デンチワリ 田

サンヨウモノコガシラ 算用者小頭 延寶六年十月朔日寺岡與兵衛・齋藤四郎左衛門・生島與四兵衛・桐山吉兵衛四人に在來の知行のまゝ御算用者小頭を命ぜられたを初とする。その中桐山のみは切米三十石であつたから、八年増して八十石とせられた。この後切米の輩を任ずれば必ずこの例に據つたのであるが、遂には一般に役知高八十石を賜はることになつた。人員不定で四五人又は六人であつた。

サンヨウモノゴガシラナミ 算用者小頭並 正徳三年四月年寄衆席執筆齋藤善助に新知七十石を與へて御算用者小頭並に任せられたを初とし、後には御家老衆席・御用所等の執筆も勤功を以て任せられることになつた。役知はなく、前の切米高に應じて新知を賜はり、この並に列した。

サンヨウモノナミ 算用者並 御算用者並は天明五年九月梅田直次郎が召抱へられ、切米三十俵を賜はつたのが初のやうである。

サンラクエン 三樂宴 一冊。大聖寺の俳人垂菊洞八水編。寛政四年中夏菊屋太兵衛板。同二年八水が還曆の壽宴に、諸國から寄せた俳句及び詩歌を集めたものである。序は寛政二庚戌の春陽望日趙人(八水男)、澤龍館主人及び濯眞齋二椽。**サンロウシン 三老臣** 藩の老臣に年寄家老・若年寄がある。年寄は門閥八家の世襲す

る所。家老と若年寄とは、人持組のうちから擇ばれる。之を併せて三老臣といふこともあつた。



シアンバシ 思案橋 金澤橋梁記に「しあん橋、本多家中」とあつて、倉月用水に架けられたものである。三州名跡志に、本多氏の元祖安房守政重の金澤へ來た頃、手明の者と稱し、男達のきはひ者を多く召仕つたが、彼等は毎日此の橋に出て、今日は西へ行かうか東へ往かうかと思案した故に橋名に呼ぶことになつたとある。又龜尾記に、昔此の附近が石浦野といふ荒地で、賊魁安藤四郎・藤塚小太郎・同伊豆などいふものが潜伏して居り、天正八年柴田勝家の爲に討亡ぼされた。其の頃しあん某といふ者のこゝに居住してゐたから橋名に遺つたともある。諸説何れも信用し難い。

シイ 四位 鹿島郡多根の古い百姓の名。能登誌に「多根村に四位とて、石動山の比古神降臨以來の者にて、往古は鍵取也」と見え。一宮の隣邑瀧村にも四位といふ百姓があつた。

シイ 四位 鳳至郡本郷に屬する部落。寛永六年八月の本郷組二十一ヶ村中に椎村とあるから、椎が四位に變じたものである。**シイイシ 四位石** 鳳至郡四位に産する石材。安山岩質凝灰岩で、灰白色石基中に、大